



かがやき



海田西小学校
通級指導教室だより No.12
令和5年9月27日(金)

おこ「怒る」としか「叱る」は、どう違う？

「怒る」

相手に自分の感情をぶつけること。



「叱る」

相手をより良い方向に導くために、
注意やアドバイスをすること。
同じ間違いを繰り返さないように、
話をすること。



叱る目的は、相手が同じことを繰り返さないようにすることです。

感情的にならないためにも、叱るのは例えば次の二つにしぼっておくとよいですね。

① 他人や自分に危害がおよぶ 可能性がある時

(例) 暴力をふるう。
信号無視をする。

② ルール違反をした時

(例) 人の物をとった。
うそをついた。

何でもかんでも叱らないことで、この二つがどんなにいけないことをしっかり意識づけることができます。

叱り方のコツ

- ① 自分の言動を振り返らせる。
- ② 「それは良いこと？悪いこと？」と、気づきを促す。
- ③ 「こうすればいいね。」と、具体的な行動を教える。
- ④ できたら即褒める。



ポイントは・・・

- ・短く話す。 (×長い話は混乱)
- ・静かに低い声で。 (×大きい声・高い声)
- ・子どもの言い分の聞きながら会話形式で。(×一方的)

これだけはやめよう！

- ×人間性を否定
「また？何であなたは。」
- ×兄弟・友達と比較
「〇〇はできるのに。」
- ×過去の話を持ち出す
「この前も・・・」
- ×友達の前で怒る

自尊感情を傷つけない
声かけを心がけましょう。

良いこと・悪いことの判断ができるように・・・

(大田区障がい者総合サポートセンター さぼーとぴあ 小児科医 武田洋子「気になる子どもの対応ヒント」より)

良いこと・悪いことを自分で判断するためには、親子の信頼関係が重要だと言われています。

子ども達は親の愛情のもと、様々なことを学びながら反抗期を経て自立に向かいます。

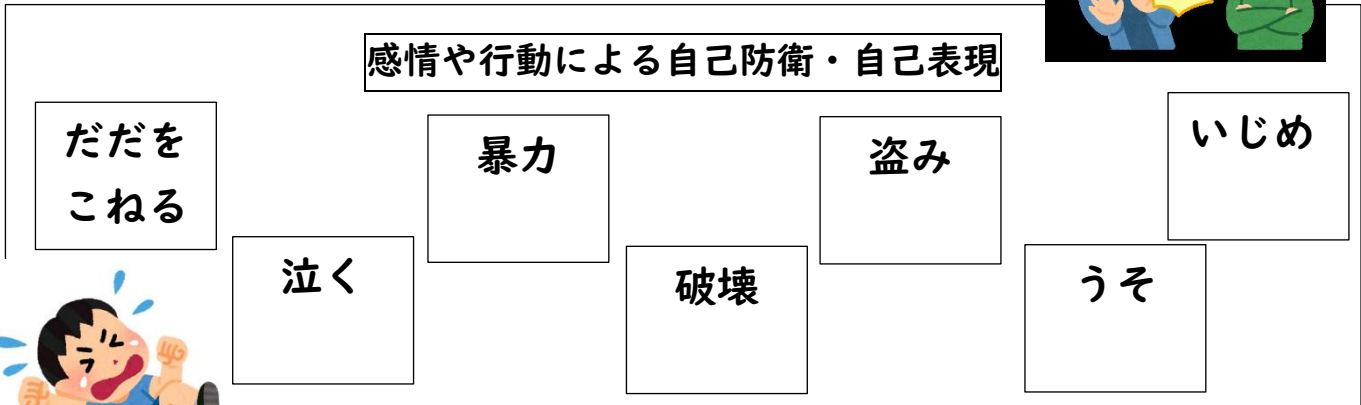
ですが、下記のような事情から信頼関係を築くことが難しい子ども達もいます。

○発達特性（自閉症など）
子ども側の特性により、
「信頼」「共感」が薄い。
→甘えたり頼ったりしない。

○環境要因（虐待など）
養育者の要因により、
人を「信頼」できない。
→常にびくびく警戒し、
頼ることができない。

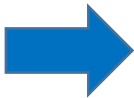
これらの子ども達は、困った時に他人に助けを求めることができにくいと言われています。

その結果、次のような行動を起こすことがあります。



問題行動の解決や予防のために・・・

規範意識の基盤となる
信頼関係を丁寧に築く。
(周囲の者が子どもを信じる。)



「行動をいさめて人格を責めず」

自分の行動に向き合わせる。
正しい行動を考えさせる。
(理解して、気付けるように。)



できたね！
上手に言えたね。
(うまくできなくても頑張りを
ねぎらいましょう。)

家族や先生が悲しむ。
みんなが困る。
がまんしよう！
いけないことはしないぞ！

